



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

左右対称

住職 平田真純

皆様がお寺のお堂の中に入ったとき、なぜか心が落ち着くと感じられる方は多いのではないかと思います。それは、信仰や歴史の重み、日々の皆様のお勤めの尊さなどで培われた雰囲気を感じるからでありましょう。加えて、その雰囲気を感じ上げる堂内の荘厳な飾りに包み込まれる心地よさもあるでしょう。

その荘厳な飾り、すなわち仏具・調度品などは、多くの場合、基本的に左右対称に配置されています。これも、心を落ち着かせる一つの要因ではないかと思えます。この左右対称は、中心をしっかりと把握するため、感じるための、いわば本尊様を中心に心の安定を促す「仕掛け」であるとも私は思っています。

ものごとが安定するには中心がなくてはなりません。心にも、そこに中心がなければ決して安定しません。私たち聖天さまを信仰するものにとりましては、中心とはすなわち聖天さまのことです。心にブレなく、あらゆることに対処するには不可欠な中心となり

ます。心のよりどころと言い換えてもよいでしょう。そんな聖天さまの功德や心の安定をいただく私たちにも心身の中心、心身のバランスが大切になってきましよう。

私たちが参拝、お勤めをする際、立った姿勢でも座った姿勢でも、左右前後のバランスに留意しながら、体の中心線を意識することもとても大事ではないかと思えます。体の中心線とは、後頭部から丹田あるいは腰に至る直線といつてよいでしょう。

両肩・両腕などは、極端に言えば、体の中心に左右対称にくっついていて調度品と考えていただきました。体のど真ん中、最内側を意識して神経を集中してみると、体全体もリラックスして、気持ちの引き締め方も違ってくると思います。ですが、参拝の心構えに迷われている方は試してみてください。



待乳山便り

十二月御縁日大法要・行事紹介

十一面観音様御開扉

十二月八日(火) 午前九時から午後二時

十二月八日に御本尊大聖歡喜天様の御前立ち、十一面観音様の御開扉が行われます。

浴油祈禱終了後、住職によって御宮殿が開かれ、内々陣手前にて参詣いただけます。

今年は密を避けるため、間隔をあけてお並びいただきます。なお、焼香はできませんので、十一面観音様に一札をいたしましたら、速やかにご退堂をお願いいたします。

午後二時には閉扉の法要が執り行われ、法要中は堂内での参拝はできません。

なお、体調の優れない方、発熱のある方は参拝をお控えください。

聖祭

十二月二十一日(月) 午前十一時

講金一、五〇〇円(ご家族一鉢毎五〇〇円)送料二〇〇円

一年間の除災を星に祈る星祭を執行いたします。

お申し込みの方にはお名前と年齢が入ったお守りを授与します。用紙にお名前と生年月日をご記入の上、寺務所にてお申し付けください。

法要中は本堂内のご参拝はできません。ライブ配信にてご参加いただけますので、ご利用ください。

納めの法要

十二月三十一日(木)

大晦日、一年の御加護に感謝し、本堂と境内の各末社で読経いたします。

今年は納めの法要に関しましても、感染対策の為僧侶のみで執り行います。

納めの法要の様子は当日の午後インターネット上に公開いたしますので、ご自宅にてご参加ください。

視聴の方法はホームページにてお知らせいたします。

本堂煤払い

十二月七日(月)、正午より今年

一年の塵を払う煤払いを行います。当日のご参拝、お札のお受け取りなどは午前中のみとなります。

正月行事のご案内

正月特別即時祈禱

元日 十一時

新年の開運を祈願致します。

今年度は事前申し込みに限定いたしましたので、元日の十一時から一座のみ、僧侶のみで執り行います。

感染対策の為、御祈禱中の本堂内での参拝はできません。

お申し込みの信徒の皆様は、ライブ配信でお参りください。

祈禱料 三、〇〇〇円

※感染対策の為、一度は中止が検討されましたが、御祈禱を望む方が多かつたため、僧侶のみで一座を執り行うこととなりました。

毘沙門天の特別拜観 元日(十五日)

普段本堂の奥におまつりしております浅草名所七福神の毘沙門天様を、内陣左手手前の仮座におまつりします。

お屠蘇接待

感染対策の為、中止といたします

大般若講 大根まつり

今年度は密集を防ぐため、残念ながら中止といたします。

朝まつり(全員)の皆様へ

新型コロナウイルスの影響で一時的に中断しておりました七十周年記念の記念碑は二月七日に除幕式を行う運びとなりました。引き続きご奉納を受付しております。

申込期限 令和三年一月末まで

正月のご祈禱お申込み、お詣りについて

年末年始は寺務所が混み合う可能性があります。ご祈禱のお申し込みは当院のホームページよりメールフォームにて事前に行ってくださいますとスムーズに受付が出来ますので、境内・寺務所の密集を避けるためにも積極的にご利用いただければと思います。

開堂時間は通常通りの予定ですが、感染状況や政府の指針などにより直前に変更する可能性があります。ご来院の際は来月のいちょう、ホームページ等を事前にご確認ください。

暦

例年節分は二月三日ですが、来年の節分は二月二日になるというニュースは皆様もご存じのことかと思えます。今月は畳講で御寶曆を授与してありますのでそれに絡めて解説させていただきます。

そもそも節分という言葉は「季節」を「分ける」日でありますから、正確に言えば日本では一年に四回節分があることとなります。

その中でも一般的に行事として行われることが多い豆まきの節分は立春の前日の事をさしています。

立春とは春が始まった一日目として例年二月四日を立春として我々の生活に定着していますが、この日はその年によって変わることがあります。というのも立春や立夏などの季節の変わり目を決定するのはカレンダーではなく、太陽の位置で決められているからです。

太陽の角度は二十四に分けられていて、三百十五度をさす時が立春になっています。この二十四に分けられている節のことを二十四節気といいます。

節気を定める際には定気法という方法を用いています。定気法は、太陽の地球上の通り道である黄道と天の赤道の交点を春分と定め、それを起点として十五度ずつ二十四の分点に分けて、太陽がこの点を通る時を二十四節気としています。

また四年に一度一年は三百六十六日になります。

この四年に一度のずれが超過分となり、この影響によって立春の日にちが変わってしまうのです。

たまたま三十年ほどの間、節分は二月三日になっていましたが、来年のようにその年によって変わるということになります。

毎年訪れる決まった季節の行事ではありませんが、くれぐれも日にちを間違えないようお気を付けくださいませ。

令和三年二十四節気の日時

(日本時)

名称	中央標準時	太陽黄経	名称	中央標準時	太陽黄経
小寒	1月5日12時23分	285°	小暑	7月7日6時05分	105°
大寒	1月20日5時40分	300°	大暑	7月22日23時26分	120°
立春	2月3日23時59分	315°	立秋	8月7日15時54分	135°
雨水	2月18日19時44分	330°	処暑	8月23日6時35分	150°
啓蟄	3月5日17時54分	345°	白露	9月7日18時53分	165°
春分	3月20日18時37分	0°	秋分	9月23日4時21分	180°
清明	4月4日22時35分	15°	寒露	10月8日10時39分	195°
穀雨	4月20日5時33分	30°	霜降	10月23日13時51分	210°
立夏	5月5日15時47分	45°	立冬	11月7日13時59分	225°
小満	5月21日4時37分	60°	小雪	11月22日11時34分	240°
芒種	6月5日19時52分	75°	大雪	12月7日6時57分	255°
夏至	6月21日12時32分	90°	冬至	12月22日0時59分	270°

諸行事再開にあたって

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、中止ならびに自粛してまいりました諸行事を9月より再開致しました。すでにご存じの信徒様も多いかと思われれますが、参加方法、注意点を改めてご案内致します。

朝まいり会・写経の会

朝まいり会、写経の会は予約制となっております。朝まいり会は毎月一日から七日の中からお一人一日のみ参加できます。定員は一日十名です。

写経の会は十一月より第二日曜日とその前日の土曜日の計二日、それぞれ定員二十八名の午前十時の会のみ開催です。

朝まいり会、写経の会の予約は専用電話番号にてご本人のみ受付いたします。

毎月十五日より翌月分受付

予約電話番号 ☎ 080-7419-1297

朝まいり会はライブ配信がございますので、ご利用ください。

諸講、合同大般若法要

当面の間、当山僧侶のみで執り行ないます。ライブ配信がございますので、ご利用ください。

お申込み頂いたお札、お供物等は法要終了後受け取り可能です。

日曜勤行、坐禅の会

当面の間、中止とさせていただきます。



十二月行事予定

御宮殿御開扉

十二月八日(火) 午前九時から午後二時 参拝無料

秘仏の御前立ち十一面観世音菩薩様を参拝できます。本年は感染対策の観点から、お焼香はごさいません。また、堂内参拝を制限させていただく場合があります。

星祭大法要

十二月二十一日(月) 午前十一時 講金二、五〇〇円也(二鉢増毎五〇〇円)

来年の除災延命祈願をいたします。一人一人にお守りを授与いたしますので、ご家族でお申し込みください。法要は僧侶のみで行います、ライブ配信をご利用ください(詳しくは三面をご覧ください)

朝まいり会

十二月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 五〇〇円也

※事前予約制 詳しくは三面をご覧ください

写経の会

十二月十二日、十三日(土、日) 午前十時のみ 会費 五〇〇円也

※事前予約制 詳しくは三面をご覧ください

本堂煤払い

十二月七日(月) 正午より

恒例の煤払いを行いますので、お参りは午前中にお済ませください。

合同大般若法要

十二月二十五日(金) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。法要は僧侶のみで行います、ライブ配信をご利用ください(詳しくは三面をご覧ください)

納めの法要

十二月三十一日(木)

この一年のご加護に感謝し、本堂を始め、各末社にお参りいたします。法要は僧侶のみで行います(詳しくは二面をご覧ください)

一月の行事 御縁日大法要

百味講

一月二十日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

※新春恒例、大根まつりは中止となります。

ご祈禱のご案内

祈禱料

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力により一層高められ、私どもが不可能と思われるような願

い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

法要案内

別座祈禱 壱万円(一週間)
浴油祈禱 三千五百円(一週間)
華水供 五百円(一日)

百味供養 法要料 八万円

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

大般若法要 法要料 五万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

自動車加持 法要料 壱万円

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

してください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。